



CARACAS



ウゴ・ラファエル・チャベス・フリアス大統領

## 日本の皆様へ

この度、ベネズエラ・ボリバル共和国の観光振興を図るため、日本の洗練された観光市場にこの小冊子をお届けできることを大変嬉しく思います。  
ベネズエラは、カリブ海、太平洋、アマゾン、アンデスそして広大なリャノス(平原)に代表されるように、その地理的特徴を反映した観光資源、多様な産物に恵まれた国です。

ベネズエラにとって観光は国を支える産業の中でも非常に重要な分野です。  
国と社会の双方に経済的利益をもたらし、それが持続可能な社会と経済の発展へと確実に繋がっていきます。  
豊かな自然に恵まれたわが国は、伝統的に環境の保護と保存に努め、現在では国土の16%に当たる地域を43の国立公園と20ヶ所に及ぶ自然遺跡として保護地区に指定しています。  
ユネスコ世界遺産に認定されたカナイマ国立公園、コロ市街とラベラ港、そしてカラカスの大学都市の3地域もまたベネズエラが世界に誇る観光資源です。  
歴史の変遷や民族的な伝統、そして混血が育んだ文化の中から生まれた数知れない文化遺産も貴重な無形遺産として忘れることはできません。

この小冊子を通じ、美しい自然とホスピタリティに溢れた国ベネズエラの魅力に日本の皆様が出会い、ベネズエラを実際に訪れたいという気持ちをお持ちになって頂ければ何より幸いです。

駐日ベネズエラ・ボリバル共和国特命全權大使  
セイコウ・イシカワ



- 正式名称 \*\*\*\*\* ベネズエラ・ボリバル共和国
- 地理上の位置 \*\*\*\*\* 北緯0度38分53秒から12度11分46秒まで  
西経59度47分30秒から73度23分まで
- 政治体制 \*\*\*\*\* 分権連邦国家
- 大統領 \*\*\*\*\* ウゴ・ラファエル・チャベス・フリアス
- 首都 \*\*\*\*\* カラカス(首都区に位置する、国政の中樞)
- 公用語 \*\*\*\*\* スペイン語(カステジャーノ)、先住民語も一部で公用語として使用
- 面積 \*\*\*\*\* 916,445平方キロメートル(日本の国土の2.45倍)
- 国土の政治的区分 \*\*\*\*\* 23州、首都区、311の大小様々な島からなる連邦保護領
- 主要都市 \*\*\*\*\* カラカス、マラカイボ、バレンシア、マラカイ、  
バルキシメート、シウダ・ボリバル
- 気候 \*\*\*\*\* 22°C~28°C
- 時差 \*\*\*\*\* 日本時間-13時間(グリニッジ標準時-4時間)
- 人口 \*\*\*\*\* 27,030,656人(2008年)
- 人種 \*\*\*\*\* メステイノ(混血)67%、白人21%、黒人10%、先住民2%
- 宗教 \*\*\*\*\* 国民の92%がカトリック教徒、その他の宗教8%
- 通貨 \*\*\*\*\* ボリバル



### 国のシンボル



- 国花 \*\*\*\*\* ラン(学名 *Cattleya mossiae*)
- 国樹 \*\*\*\*\* アラグアネイ(熱帯産のノウゼンカズラ科の花木、学名 *Tabebuia chrysantha*)
- 国鳥 \*\*\*\*\* ムクドリモドキ(学名 *Icterus icterus*)



\*\*\*\*\*

## ベネズエラ、熱帯の楽園

ベネズエラはすばらしい恵みに満ちた、まさに地上の楽園です。

変化に富んだ豊かな自然が、この国に多種多様な観光資源をもたらしています。平原、サバンナ、砂漠、密林、山々、雪、アンデス山脈、オリノコ川のデルタ地帯、川、カリブ海、島々、美しい海岸やビーチ、そして太陽。

伝統的なものと現代的なもの、その双方に豊かに恵まれています。現実と魔術とが混じり合い、

自然と人の力が組み合わさって驚くべき美が生み出されています。人々はみな魅力的で、素朴かつ勤勉で善良です。

ベネズエラは北米、南米そしてヨーロッパを結ぶ特異な地点に位置し、そのために三大陸の架け橋として貴重な役割を果たしています。人々は訪れる人をいつもあたたかく迎えます、年間を通じて温暖で快適な気候もまたこの国のもてなしの一つといえます。

4006キロメートル以上におよぶ海岸線、アンデス山脈の一部を成す高峰、

さらにはアマゾンの熱帯雨林ーベネズエラはこの上なくすばらしい、多様な自然に恵まれた国です。

世界で唯一この国だけにある「テピイ」と呼ばれるテーブルマウンテン、

太古に起源をもつその巨大な山々をいくつも目の当たりにすることができ、さらに、広大な平原、悠々と流れる河川、海面から突き出た大岩、小さな島々、そして砂漠など、ベネズエラではありとあらゆる自然を、一度に堪能することができます。

ベネズエラは疑いもなく地上の楽園です。首都カラカスからはじまる旅は、ロス・ロケスやグラン・サバナといった

魅力にあふれる地域をめぐり、ユネスコ世界遺産に指定されたカナイマ国立公園、

コロトラ・ベラ港、カラカスの大学都市へと続きます。さらにスリア、メリダ、マルガリータ島、

また、印象的な孤島など、夢が現実になったような、いくつもの観光スポットが次から次へと人々をいざないます。

旅の交通手段の選び方によっても、ベネズエラは異なる表情を見せてくれます。

空路、陸路、海路を使い分けて、この地上の楽園を心ゆくまで堪能してください。



### 観光データ

ベネズエラの主な祝祭日

- 1月1日 元日
- 2月または3月 カーニバル
- 3月または4月 セマナ・サンタ(イースター)
- 4月19日 独立宣言記念日
- 5月1日 メーデー
- 6月24日 カラボが戦勝記念日、陸軍の日
- 7月5日 独立記念日
- 7月24日 シモン・ボリバル生誕記念日、海軍の日
- 10月12日 民族の日
- 12月25日 クリスマス

### ベネズエラの交通システム

**国際空港** ..... マイケティア国際空港(カラカス)、グラノ・デオロ国際空港(マラカイボ)、ボルラマール国際空港(マルガリータ島)。これら3つの空港で乗客・国際貨物の90%以上を取り扱っています。

**主要な港** ..... 重要な港があるのは、プエルト・カベージョ、マラカイボ、ラ・グアイラ、グアンタ、スクレ(クマナ)、ボルラマール、シウダ・ボリバル(オリノコ川)、主なフェリー会社は、グラン・カシー社とコンソリダー・デ・フェリス社(CONFERRY)です。

**為替** ..... 外貨管理委員会(CADIVI)が外貨取引を管理。 [www.cadivi.gov.ve](http://www.cadivi.gov.ve)

**持ち込み限度(ベネズエラへの入国時)** ..... 紙巻タバコ200本、葉巻25本、酒2リットル(2000 cm<sup>3</sup>)、香水小ビン4本、未使用の商品1000米ドルまで持ち込み可です。乳製品、豚内の加工品は持ち込み禁止。ただし、生産国の所定の衛生許可書のあるハードチーズは例外です。また、所定の輸出入許可書を提示する場合を除いて、種子、生花、果物、植物の持ち込みも禁止されています。動物を持ち込む場合は、認証済みの検査証明書と予防接種証明書の提示が必要です。

**持ち出し限度(ベネズエラからの出国時)** ..... 最高1万米ドル相当まで可。(問い合わせ先: CADIVI)

**空港税** ..... ベネズエラ人の乗客または外国人旅行者は、出国時に2税務単位(U.N.)または、これに相当する米ドル(US\$)を支払わなければなりません<sup>※</sup>。外国人は入国の際、21米ドルの入国税を支払わなければなりません。支払いは現金のみ。

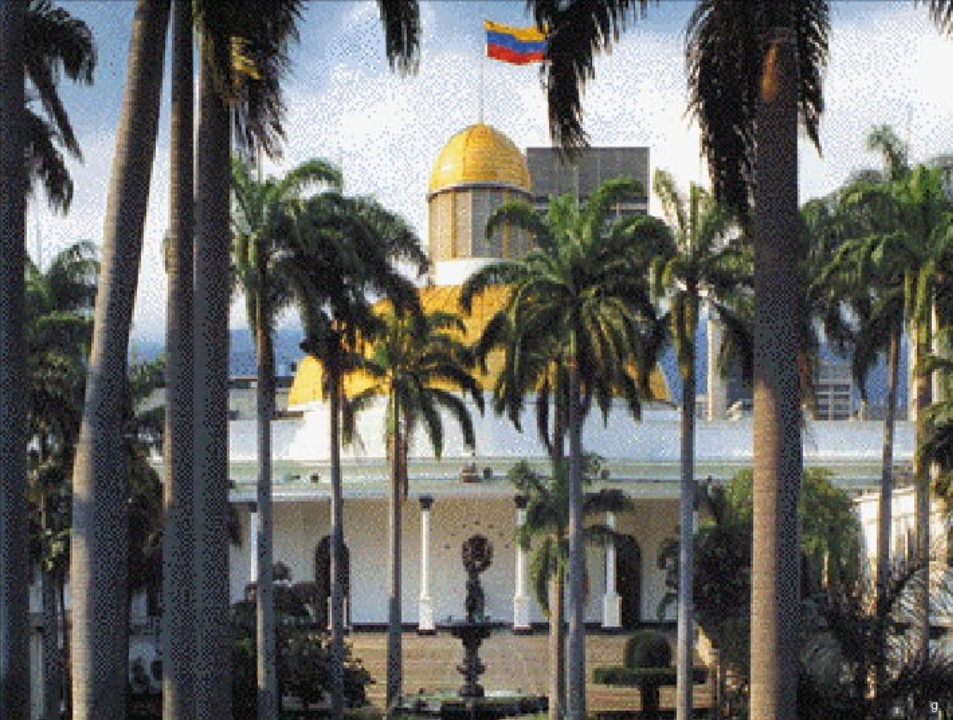
**その他の税金** ..... 国内では15%の付加価値税が適用されています。ただし、食料、薬品のような必需品は課税対象外です。店によっては、付加価値税を販売価格に含めている場合もあります。国立公園に入る際には入園料がかかります。

※当パンフレット印刷時点

### ベネズエラ経済

ベネズエラの主要産業は原油ならびに石油製品の生産・輸出です。現在は、鉄、アルミニウム、銅などの鉱物やセメントの輸出に加え、石油化学製品や鉄鋼など、従来は取り扱っていなかった製品の輸出も行っています。主な貿易相手国としては、アメリカ合衆国、コロンビア、イギリス、オランダ、日本、メキシコ、イタリア、ドイツ、ブラジル、カナダ、フランス、スペインが挙げられます。





★★★★★★

## 歴史・文化

スペインを旅立った航海士クリストバル・コロン(コロンブス)が、スクレ州のマケロ沿岸を初めて訪れたのは1498年。以来、スペイン人によるベネズエラの開拓が始まりました。

1499年には、アロンソ・デ・オヘーダ船長率いるスペイン探検隊がベネズエラ西部の、半島岸に到着し、遠くから見た水上に浮かぶ先住民の集落がベネチアに似ていたことから、彼はそその地を「小ベネチア」と名づけました。これがベネズエラの名前の由来です。

間もなく東部のマルガリータ島と本土のクマナを2大拠点として、スペイン人による開拓、占領、植民が始まり、1500年にベネズエラ初のヨーロッパ植民都市となったクバグアが建設されました。

一方、西部においては1527年以降、コロが建設され、ファルコン州の海岸部が入植拠点となりました。

16世紀中にベネズエラに入植したスペイン人は約5000人、黒人は1万3000人と推定されています。

こうしたなか、各入植者の文化が、その当時の先住民の文化、慣習と融合し、新たなシンボル、言語表現、住居、衣服、民芸品、食文化が形成されるに至りました。

1805年8月15日、熱い志を持つ自由の信奉者であるシモン・ボリバルが、ローマのモンテ・サクロの丘で母国解放を誓いました。

クリオーリョで、高い教養を身につけ、優れたリーダーシップの持ち主である

ボリバルは自らを「困難に立ち向かう男」と称しています。

1811年から1821年にかけて、彼はコロンビア、ベネズエラ、エクアドル、ペルー、ボリビアの独立を勝ち取りました。

1819年にはアンゴストゥーラで議会を召集し、

現在のパナマ、コロンビア、ベネズエラ、エクアドルからなる国を、「大コロンビア」と命名しました。

## 民芸品

ベネズエラの民芸品は、自然環境、文化、社会、経済を色濃く反映しています。各地方の原材料や必需品の種類によって民芸品にも大きな違いが見られます。アンデス山脈ではルアナ(ボンチョに似た外衣)や毛布用の毛織糸、暑い地域ではハンモック用の綿糸、また、全国的に帽子・かご用の植物繊維や陶器類が生産されています。アマゾンからグアヒラ族の住む乾燥地まで、暑い東部沿岸部からアンデスの高地までと、先住民のコミュニティや職人達が地元の原材料を使い、地域の特産品を作っています。



## 食文化

ベネズエラの食文化を語ることは、香り・風味の世界に浸ることにほかなりません。先住民のルーツとヨーロッパ食文化の影響を受けた、味わい豊かで色鮮やかな料理の世界です。様々な文化の融合がこの国の料理を極めて個性的なものにしています。トウモロコシ、ユッカ、バナナ、トウガラシ、穀物、根菜、サトウキビ、肉類、鶏肉が多岐にわたって使用されるのが特徴で、これらのバラエティ豊かな食材が他に類を見ないすばらしい料理を生み出します。代表的な料理は、パベジョン・クリオージョ、アレバ、アヤカ、カチャバ、トウモロコシの粉を使ったエンバナダ、アサード・ネグロ、カサベ、鶏肉の煮込み、肉や魚の煮込みなどが挙げられます。また、ベネズエラ料理と言えばデザートも豊富で、マハレテやテキキチェと言った先住民のデザートや、黒砂糖をベースにしたお菓子があります。植民地時代から受け継がれている家庭の手作りお菓子のペルル風ケーキやホホトのハイ、バナナブレッドは特に有名です。さらに、ハイナツプルやグアバ、オレンジ、ココナツを使用した、ベネズエラ独特のプディングやケシージョも忘れることはできません。

## 音楽

ベネズエラ音楽の特徴は、スペイン人、先住民、そしてアフリカ民族の要素がミックスされているところにあります。最も代表的な音楽はホローボ、これはクアトロ(四弦小型ギター)、アルバ(ヨーロッパに起源を持つ)、マラスカ(先住民またはアフリカに起源を持つ)と言った楽器を使って演奏されます。また、アフリカの影響が色濃く出ているのは太鼓です。さらに、スリア州では、この州独特のガイタが生まれました。近隣諸国の音楽の中では、サルサやメレンゲ(スペイン語圏カリブの音楽)、カリブソ、レゲエ、ジャズ、ソカ(英語圏・フランス語圏カリブの音楽)など、あらゆる種類のカリブ音楽も流行しています。



## ベネズエラの宗教行事

各地域の民間伝承や伝統行事として、エル・タムナング、ラ・バタージャ、ラ・ページャ、クルス・デ・マヨ(五月の十字祭)、キリスト聖体の祝日に踊られる悪魔の踊り、サン・ファン祭、サン・ペドロ祭、ホローボ・セントラル、バラドゥーラ・デ・ニーニョ、バサージョ・デ・ラ・カンデラリア(聖母マリア清めの祝日の届下達)、サルディーナの埋葬、ユダの火あぶり、聖アントニオの日、ラス・トゥラス、ディベルシオネス・オリエンターレス、聖母カルメンの日、先住民の祭り、ラ・ジョーラ、サン・ベニート祭、ラ・フェリア・デ・ラ・チニータ(チニータ祭)、ラ・プロセシオン・デ・ラ・ディビナ・ナストラなどが挙げられます。





\*\*\*\*\*

## ユネスコ世界遺産に指定された 「自然遺産」・「文化遺産」

### カナイマ国立公園 自然遺産

1962年6月12日、ベネズエラ南東部のボリバル州に位置する300万ヘクタールに及ぶ地域が、カナイマ国立公園として指定されました。公園内にはグラン・サバナの高原、東部にはテプイと呼ばれるテーブルマウンテンやロライマ山があります。また、砂岩からなるチマンタやアウヤンテプイもあり、公園北西部には低地も見られます。それらすべてに6億年の侵食に耐えた先カンブリア代の岩盤が残っており、見事な景観を呈しています。

公園内で最も重要な植生は、サバナ、ヤシの木立、灌木、森林、そしてテプイの山頂で観測される原始植物です。森やサバナには、ヘモン族として知られているアメリカンという先住民族(カリブ民族の子孫)が1万年前から住んでいます。

カナイマ国立公園では、風化によって形成された珍しい地形が見られます。様々な形をしたテプイには、世界最大落差を誇るエンジェルスの滝も含め、多くの滝があります。テプイの山頂は非常にユニークで、他に例を見ない生物地理学的実体「バンテプイ」と認知されるに至っています。また、国立公園内には遺跡が2ヶ所あり、9000年前のものと推定される様々な手製の石器が発見されています。



### 大学都市 文化遺産

2000年11月30日、オーストラリアのケアンズで開催されたユネスコ世界遺産委員会の会議で、カラカスの大学都市が世界遺産に登録されました。

近代建築と都市芸術からなる20世紀の都市の概念や、建築的、芸術的アイデアを具現化した顕著な例であるカラカスの大学都市は、建築家のカルロス・ラウル・ビジャヌエバと当時のきわめて前衛的な芸術家のグループによって、1940年から1960年にかけて建設されました。

植民地の伝統が独創的な解釈によって観念的、空間的に表現され、モダニズム建築の卓越した例となっています。

大学のキャンパスには様々な建物や構造物が関連性と調和を保ちながら配置され、その中には、彫刻家アレキサンダー・カルダーの手による「雲」の置かれたアウラ・マグナ(講堂)や、オリンピック・スタジアム、ドーム広場など、近代建築とビジュアルアートの傑作があります。





## コロ市街とラ・ベラ港 文化遺産

1993年12月、ファルコン州にあるサンタ・アナ・デ・コロ市とラ・ベラ港が、歴史的、文化的、建築的な価値を認められ、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

コロはカリブ海を臨む港町で、先住民族の伝統家屋とスペインのムデハル様式やオランダの建築技術との融合から生まれた建造物が現存する、世界に例を見ない都市です。初期の植民都市(1527年に創設)の一つであり、602ヶ所の歴史的建物を見ることができます。また、コロはベネズエラの泥土づくりの重要な港町の一つで、カリブ海沿岸地帯の貴重な都市でもあります。

コロでは歴代の建築様式の変遷を目の当たりにし、鑑賞することができます。

16世紀から20世紀にかけて造られた代表的な歴史的建造物には、ルネッサンス後期の様式やバロック様式、共和国様式の特徴が表れ、様々な技術も同時に観察することができます。

土を用いた多様な技術、荒石積み、初期の鉄筋コンクリートの使用例も見られます。

コロには建築遺産の存在のみでなく、

音楽、舞踊、食文化、建築技術、陶芸、口承伝統、民芸品、郷土芸能等、多岐にわたる豊かな文化がその歴史に色濃く反映し、無形文化財として現存しています。

料理の分野においても、仔ヤギのタルカリやナタ、アレーバ・ペラーダ、ヤギのミルクのお菓子など

バラエティに富んだ郷土料理を楽しむことができます。

このような多様性は、先住民、ヨーロッパ、アフリカのそれぞれの文化が結びついた祭りにも表れています。

なかでも、太鼓踊り、ラスト・トゥラスの踊り、毎年12月28日に開催される幼な子殉教の日のお祝いも特筆に値します。

コロはまた、5つの美術館をかかえる

「美術館の街」としても有名な観光スポットでもあります。

教区美術館、コロ美術館、陶器美術館として使われているカーサ・デ・ロス・アルカヤ、アルベルト・エンリケス美術館(鉄窓の家)の4つは植民地地区にあります。

歴史や建築物と対比を成すのが、自然の賜です。

暑い気候の地帯とは対照的な涼しいシエラ山岳地方の村落、乾燥地帯の植物、美しい砂浜、メダノス・デ・コロ国立公園として知られている砂漠地帯などが挙げられます。



# Mountainous Region

## 山岳地帯



ベネズエラはアンデス山脈の北端部を擁し、標高5002メートルの最高峰ピコ・ボリバル(メリダ)や、標高4952メートルのピコ・ファン・ポルトや、標高4880メートルのピコ・ボンブランドなど、4000メートルを超える高峰が連なっています。メリダには、距離(12.5キロメートル)、高度(標高4600メートル以上)ともに世界一を誇るケーブルカーがあり、山々や高地、湖、川、谷、散在する美しい集落、昔ながらの町や教会などのすばらしい景観を楽しむことができます。1日のうちに気温が49度から15度まで変化する高地で、唯一生き延びている花がフライレホンです。また太古の氷河の名残である湖は、清らかな青い水をたたえ訪れる人の心に深い印象を残します。トゥルビージョには「ベネズエラの庭」と称される、緑と花に囲まれた街、ボコノがあります。この歴史と伝統に溢れた街は、南米大陸でも屈指の高さを誇る「平和の聖母」像があることでも有名です。タチラには伝統豊かなパイラド・レス村や、タボール村があります。またカチャマ、コボロ、ハボン、ハロメータ、隣などが狙えるフィッシングの名所であり、カプトホウカンチョウ、アンデス熊の生息地としても知られています。バルキシメートはベネズエラの音楽のメッカで、黄昏時の空と民芸品の美しさが印象的です。



★★★★★★



★★★★★★





東部のモナス州には、石油の街があり、緑が豊かに広がり、人々は陽気で、盛大なカーニバルが開かれます。フンボルトの記念碑があるグアチャロ洞窟国立公園は、10キロメートルにも渡るガレリア林とグアチャロと呼ばれる洞窟性の鳥の保護区が圧巻です。グアチャロは暗闇を好み、洞窟の奥深くに住み、フルーツを餌とする唯一の夜行性の鳥です。東部は動植物も多種多様であり、モロ・デ・アグリビトとエル・ピントには温泉もあります。



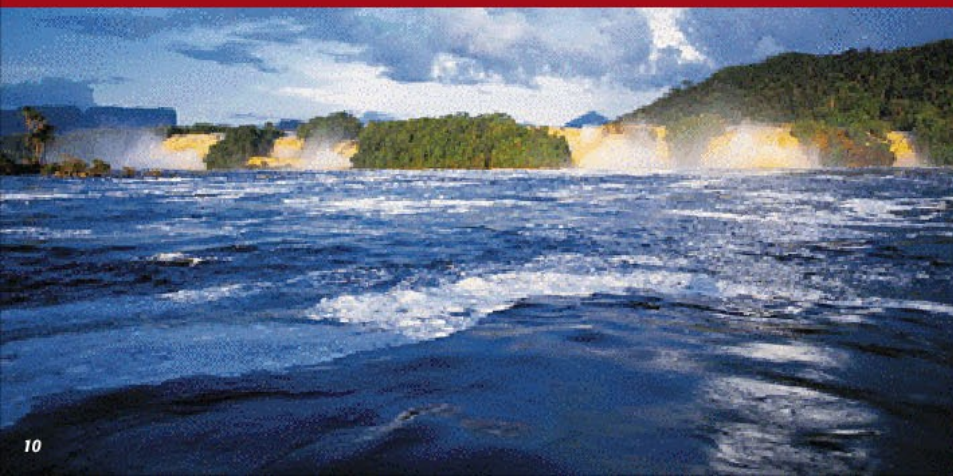
# Guiana Highland

## ギアナ高地



最大の魅力はグラン・サバナにあります。この地域は東西二区域に分かれますが、双方共に、ゆるやかに流れる河川と急流、そして滝などスリルに満ちています。なかでもエンジェルの滝は、世界最大の978メートルの落差を誇っています。また、ヘモン族の言葉で「山」を意味するテピイは20億年から30億年前にできたもので、山頂が平らで筒状という独特の景観を呈しており、中には標高2400メートル以上に達するものもあります。標高2763メートルのロライマ山は、テピイの中でも最も重要です。岩石のモニュメントともいべきテピイの群れは、面積300万ヘクタールに及ぶカナイマ国立公園の一部を形成しています。ここには、6000種以上の植物が生息しており、その一部は固有種です。このうちほぼ500種がベネズエラの国花であるランで、世界でも例を見ない生態系が形成されており、研究に訪れる科学者が絶えません。また、150種の哺乳類、550種の鳥類、72種の爬虫類、55種の両生類がそれぞれの標高や植生、生態系のもとに生息しており、エコツアーには格好のスポットとなっています。さらに、地域一帯には美術館や自然公園、街路、河川数が多く、又、様々な慣習や伝統が数多く残っています。

\*\*\*\*\*







海岸部には、13平方キロメートルのマラカイボ湖という南米最大の淡水湖があります。このマラカイボ湖には、全長8678メートルのラファエル・ウルダネータ將軍橋が銀の糸のように架っており、コンクリート建造物としては、世界でも類を見ないすばらしさです。一方、フアルコン州の州都サンタ・アナ・デ・コロトラ・ベラ港は、ユネスコ世界歴史文化遺産に登録されました。さらに、モロコイやアディコーラなど、すばらしい砂州や豊かな海岸があります。ヤラクイには滝や洞窟、ビーチ、パラドール、国立公園があり、その一つであるユルビ国立公園は、ソルテ山の自然を守る女神マリア・リエンサが宿る天然のモニュメントです。また、ベネズエラの植生を代表する国立植物公園もあります。カラボには、1821年6月24日、ベネズエラの独立を決定的にした戦いの地として国の文化財に指定されているカラボが戦地があります。その他、独立の英雄であるホセ・A・バエス將軍の邸宅やヘンリ・ピティエ国立公園が挙げられます。洗練された自然の産物であるこの国立公園は、アラグア州に隣接しており、植民地時代から現在に至るまで世界的に名を知られたチュアオ・カカオの産地でもあります。また、チョコロニなどカリブ海のビーチやカタ湾、ピコ・コダッシュ、それに忘れてはならない「ドイツ村」コロニアトバルがあります。

# Coastal Region

## 海岸地帯



ベネズエラの4006キロメートルに及ぶ海岸線は、すべてカリブ海に面しています。そのうち1700キロメートルは砂浜で、海水は澄んで温かく、年間を通じて太陽が降り注ぐ熱帯気候となっています。西部の海岸では乾燥地帯とマングローブの林が共に見られますが、東部へ行くにつれて海岸沿いまで森が伸び、さわやかな風が岸壁を撫でていきます。オリノコ川のデルタ地帯からは、はるかかあなたにトリニダード・トバゴを認めることができます。ベネズエラには大小合わせて314の島があります。その中でも特に美しいとされるのが、マルガリータ島、カリブ海南部唯一の環礁があるロス・ロケス群島、海鳥やウミガメ達の理想的な生息地となっているラ・トルトゥーガ島、ロス・ステイゴ島、ラス・アベスト島です。また、ビーチのすばらしさでは、マルガリータ島やモチマ、モロコイ、ロス・ロケス、ハリア半島、メディナビーチ、チョコノイ、タカリグア湖、連邦領、コロの砂州、トゥルエハノが有名です。



★★★★★★



澄んだ水と滴るような緑に心を打たれたコロンブスが「恵みの地」と名づけたスクレ州クマナは1521年に建設された南米大陸初の街で、「新世界」すなわち「アメリカ」発見の出発点となりました。クマナは天然の港と漁業の街で、海と山に囲まれ、4つの国立公園があります。また、文化的にも非常に多様な街で、城や教会、歴史的な建造物、ビーチ、そして博物館がクマナの歴史を物語っています。美食の街として知られ、カルパノのカーニバルも有名です。680平方キロメートルに及ぶカリブ海沿岸は、多くの花の自生地であり、地球上で最も豊かな植物の宝庫と言えるでしょう。「カカオ紳士の街」とも呼ばれるリオ・カリベには、国内最高級のカカオが栽培されているアグア・サンタ農園があります。





# Plain Region

## 平原地帯(リャノス)

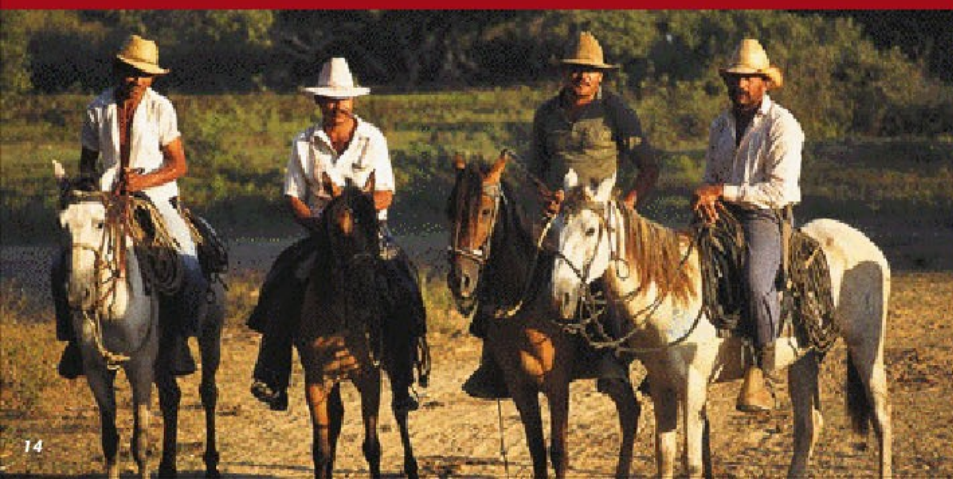


森とサバンナが交互に織りなして限りなく続く「リャノス」はまさに別天地です。休日には、人々はバーベキューや闘牛、闘鶏などを楽しみます。モロス・デ・サン・ファン(サン・ファンのイスラム教徒達)と呼ばれる大きな岩の転がる地は、温泉地として国際的に知られています。また、リャノスには豊富な石油が埋蔵されており、農牧業も非常に発達し、鉱物資源も豊富です。また、グアナレは歴史的、宗教的な経緯を経て、ベネズエラの精神的な首都となっています。リャノスには代表的な2つの公園があり、その一つであるシナルコ・カバナハーロ公園は、面積58万4368ヘクタールでアプレ州に位置し、典型的なガレリアやモリチャレス、サバンナがあることで有名です。雨季になると、オリノコ川、シナルコ川、カバナハーロ川の間には大きな沼ができます。シナルコのガレーラス山はこの辺りにある唯一の山ですが、ここでは先住民族の絵文字や美しい景色、広大なサバンナが見られ、多くの種類の野鳥が生息しています。



グアリコ州に位置する面積56万9000ヘクタールのアグアロ・グアリキト公園もまたリャノスを代表する公園の一つです。ここには中央平原部で最も豊かな生態系があり、湿地、砂州、浅瀬、砂嘴、ヤシが茂る川岸のガレリア林から成る美しい景色があります。公園内には、グアリキト川、アグアロ川、サン・ホセ川の支流に当たるモカブラ川、サン・バルトラ川、ファルトリケーラ川の盆地が含まれています。

\*\*\*\*\*







## ツアーコース



### 野生動植物観察コース

多種多様な自然が生み出す地形や起伏により、ベネズエラ国内には3336もの動物種・亜種が生息しています。なかでも1315種の鳥類(世界で認知されている全鳥類の15%に相当、また新熱帯地区に生息する3000種の40%に相当)が生息し、2万5000種もの植物も確認されており、ベネズエラは世界でも有数な生物の多様性を誇る国の一つとなっています。さらに、世界でも極めて希少で、ここでしか見られない鳥類が51種、世界で限られた地域にしかない鳥類が45種も生息しています。更に332種の爬虫類、113種の両生類、1195種の魚類、328種の哺乳類が加えられます。世界自然保護基金(WWF)は、アメリカ大陸の6大多様種国とベネズエラを位置付けています。



### スポーツフィッシング



カリブ海と大西洋の長い海岸線、広い範囲に広がる河川や湖を擁していることから、ベネズエラはスポーツフィッシングに最適な舞台となっています。フィッシングができる地域も様々で魚種にもよりますが、ポリバル州の河川や湖ではバボン(ピーコックバス)やハヤラ、リオ・チコの水路や中央海岸のタカリグア湖ではサバロ(ターボン)やロバロ(スヌーク)、モロコイ国立公園ではアジ(イエローテイル)やカジキ、ロス・ロケス国立公園ではベス・ラトン(ソトイワシ)、トルトゥーガ島ではカリテレイ(キングマツケル)を楽しむことができます。更にはアグーハ・アスール(ブルーマリン)、アグーハ・ブランカ(ホワイトマリン)、アグーハ・ネグラ(ブラックマリン)、ベス・ペーラ(セイルフィッシュ)のアグーハ4種のグランドスラムも釣ることができます。フライフィッシング、投げ釣り、トローリング等が広く親しまれています。

ベネズエラポリバル共和国政府は、観光部門を国の社会的・経済的発展における重要な要素ととらえて観光省を設置し、観光振興計画を国家レベルで進めています。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.mintur.gob.ve>

制作協力: 外務省情報提供部(国際及び情報課)  
国立自然観光振興基金協会(INATUR): Instituto Autónomo Fondo Nacional de Promoción Turística  
写真提供: a 香森諭子(写真家・プロデューサー) b 船橋賢治 e Andriana Lakat(写真家)  
d Luis Brito, Jorge Castell, Silvia Hernández de Lesle, Gregory Vartulov 保護開発協議会(COPRED):  
Consejo de Presentación y Desarrollo(写真・情報課) c カイゴリ e 丹谷英夫(写真家)  
f Asir Margarita 1996, Soledad Menéndez g BellMundo Venezuela 1995, Edit. oriale La Torre S.r.l.  
h Ritae de Tradiciones Venezolanas 1998, C.A. Editora El Nacional y Fundación Bigott

## ベネズエラと米州開発銀行

### 1. 米州開発銀行について

米州開発銀行(Inter-American Development Bank: IDB)グループはラテンアメリカ・カリブ海諸国における社会・経済開発のみならず貿易や地域統合を促進するための多国間開発金融機関です。ワシントンDCに本部を構えるIDBグループはIDB、米州投資公社(IIC)及び多数国間投資基金(MIF)から構成されており、日本政府はこれらのいずれにも資金を拠出しています。地域事務所は借入加盟26カ国のほか、東京とパリに設けられています。グループ全体で、約2000名の職員が勤務しています。

ラテンアメリカにおける開発機関の先駆けとしてIDBは1959年に設立されました。IDBはもともラテンアメリカ諸国とアメリカ合衆国により設立されましたが、その後カリブ海諸国、カナダ、ヨーロッパ16カ国、イスラエルおよび日本、韓国に拡がり、現在域内借入26カ国を含む47加盟国を有し、借入加盟国の政策立案の支援及び、環境問題を十分考慮に入れた持続可能な経済発展、競争力強化、社会平等、貧困削減、国家の近代化、自由貿易及び地域統合の実現のための金融・技術支援を行っています。

### 2. ベネズエラにおけるIDBの活動

IDBでは、1961年の業務開始から2006年1月までの間にベネズエラに対し、99件、約46億ドルのローン及び、210件、約18百万ドルの無償資金を承認してきました。IDBのベネズエラにおける業務は、ベネズエラ政府をはじめとする関係先との対話プロセスを通して作成された戦略に基づき行われており、2005年、06年には、電力セクター強化、水資源開発、税制近代化、教育・社会開発、環境保護等の分野でのプロジェクトが承認されています。



#### 米州開発銀行駐日事務所

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル16F Tel: 03-3591-0461 Fax: 03-3591-0641  
<http://www.iadb.org/japan> E-mail: [prj@iadb.org](mailto:prj@iadb.org)

